

## 道・川・まちをきっかけにした 元気な地域づくりフォーラム

12月16日(日)にアイーナスタジオで開催したフォーラムの内容を、2回にわけてご紹介。今回は、基調スピーチです。“笑劇のまちづくりコーディネーター”の異名も持つ今泉重敏さんの、わくわくするまちづくりアイデア満載のお話でした。

### 「道・川を活かした元気あふれる地域づくり」 NPO法人地域交流センター 今泉重敏氏



#### はじめに

皆さん、お疲れの方もいらっしゃると思います。疲れのとれるツボは、手のひらの真ん中です。ここを押すと疲れがどんどんとれてきます。こうやってすぐにやっていただく方は純粋な方。岩手の方は純粋な方が多いですね。ご協力ありがとうございます。美容に効くのは小指に集中しているそうです。そうそう、でも今すぐ効くかどうかわかりませんが・・・。

こういうつぼが道路の横に貼ってあったらどうしますか？腰痛に効くといったら、散歩している人が押し始めました。試験に効くツボを貼っていたら、子供たちが首をもんでいました。

これは鉄道の中でもできます。十数年前、第3セクター鉄道の中で二日酔いに効くツボを貼って、握るつり革にイボイボをつけていたら、二日酔いらしき人がツボ押しをしていました。人を運ぶだけが鉄道ではなく、車内で健康づくりや会話など、いろいろなアイデアを盛り込むと楽しい列車が誕生します。

#### 役所経験

私は学生の時から、役所と市民の間のコーディネーターになりたいと思っていました。人口1万人以下の福岡市の隣に位置する久山町の、当時の小早川新町長に惚れ込み、役場に7年半勤めました。久山町の特徴は、死んだら全員が剖検(剖検=解剖による検査)を受けることです。死因を確かめる久山方式で、WHOでも紹介され、健康に対する意識がとても高い町です。もうひとつは、乱開発を防ぐために急激な人口増加を抑制してきた町。福岡市の隣ですから、土地利用をきちんとしておかないといろいろな人が入ってきますので、人を受け入れない市街地調整区域に町の97%を指定しています。

私は、まちづくりを仕掛ける協働コーディネーターとして九州を拠点に全国を飛び回っていますが、一方で、プロのコンサルとして、市町村の10年計画(長期構想)を策定したり、地域おこしマイスター(農村地域活性化アドバイザー)、中心市街地タウンマネージャー、福岡県地域づくりアドバイザー兼コーディネーターなど、いろんなことをやりながら、アイデアあふれる地域づくり活動に取り組んでいます。公務員の方も、5時から市民です。飲みに行くとき、休日に遊びやショッピング等に出かけるとき、「ここにこんなものがあってもっとこの地域や町は良くなるなあ」というアイデアを日頃から考えておくと、実践に役立ちます。必ずしも仕事場に居るときだけが、仕事ではありません。24時間、まちづくりのヒントは周りに眠っています。

#### プラスをマイナスに

新たな発想を生み出すためには、現場に行ってそこにしかないものを探していくことです。ある町では「坂道が多い」。坂道が多ければ坂道を活かす発想が大切。坂道ベスト3を決めて、ベスト1になったところで、1年に1回坂道を登る大会をしましょうというアイデアを出す。後ろ向きで登る、ケンケンで登る、車いすで登るなど工夫すれば1日中遊べます。参加者はのどが渇くので、近くの飲食店もはやります。視点を変えて、そこにしかないものを活かす。マイナスをプラスにする。マイナスが二つあれ

ば、一方を縦にするとプラスに変わる。このような発想転換が必要です。

### 場づくりの工夫

協働の県土づくりを展開するのなら、幸せと夢を育む公務員を目指しましょう。すばらしい公務員は「幸夢員」と呼べますが、最近、残念ながら市民の心が読めない、つまり公がない「公無員」が増えているようです。私は、約1万人の人的ネットワークをもっています。その中でもまちづくりや地域づくりに特に熱心に情熱を傾ける人々で、「九州のぼせもん倶楽部」を緩やかな繋がりですくっています。そのメンバーがまちづくりや地域づくりに困っていたら、¥(円)のやり取り無しでアイデアを出したり、実際に相手のところに向きアドバイスを行うなど、見えない、究極の地域通貨でやりとりをしています。私が出向くと、今度は私が困ったときに、のぼせもんが助けに来てくれる。

NPOと連携しようといっただけでも、役所の会議は何となく暗いイメージがあって、アイデアは出てきません。会議の場に花を1輪飾っておく、器に水を盛って花びらを数枚浮かせておくだけで会議の雰囲気は変わります。NPOの場合、活動の資料を複数持参、入口に並べておくだけで、興味ある人は資料を取り、その後の交流、連携につながり、出席した甲斐もあるというものです。

出席者名簿を作るとき、どこから来たか、地図に名前を書かせて配りました。河川のときは、上流から下流という順に、誕生日順に並ぶこともあります。道路の会議だと、東から西へという具合に並ぶ。誕生日だと、「生まれはいつ」から会話が始まります。一回一回わくわくする会議になります。NPOの集まりでは、組織や地域の自慢のものを机のうえにおいて、それを話題にしながら30秒ずつスピーチすることから始めています。

話すとき長い人が出てきますね。普通3分以上頭の中を整理しながら人の話を集中して聞くことはできないと心理学者等は言っています。そこで私は、会議で4分話す人がいるとイエローカード、5分でレッドカードを出します。会議はリズムが大事。20人の会議では自己紹介

は30秒ずつ。最初の人には、意識的に30秒ちょっと話してもらい、罰金500円を払ってもらおうと、次の人から話は短くなります。しかし今度は名前だけしか言わない人が出てきます。名前だけで中身がないと200円と言うと出席者は考え、印象に残る紹介を行うようになります。インパクトのある自己紹介の仕方をぜひ訓練してください。

### 地域づくりのポイント

私は、今、小学校単位で地域づくりを仕掛けています。自治会単位でも良いですが、ある程度人口規模が無いと地域によっては高齢者ばかりの活動となってしまいます。最近の地域の一番の課題は、子どもたちを不審者から守ることです。自治会単位で守ろうと思っても、子どもは隣の自治会を通過して学校に行くので、隣の自治会がやってくれないと意味がありません。そうすると小学校単位の、面識ある社会で取り組むのが良いでしょう。私がアドバイスしているところでは、小学校単位でPTA、自治会、婦人会、老人クラブなどが一本化し、まちづくり協議会や地域コミュニティ組織を作り、補助金も統合し、一括交付金としてまちづくり活動を行政が支援しています。

まちづくりを進める場合、まずは地域をよく見て回りましょう。よそ者も若者も参加して、地域を見て回ると、いろんなものが見えてくる。福岡県のみやま市では、地域で将来こうなったら良いと思う10年構想を小学校単位の市民参加で策定し、その計画を実行に移すとき、行政から人的、資金的支援が得られるという仕組みがあります。区長、公民館長、校長が代わっても、やる気のあるところを支援するという仕組みができています。

### 協働

協働という字を見てください。「協」の旁は力が3つです。市民、行政、NPO等の3つの力で、「働」字の偏と旁が示すように、3つの力が合わさって“人”が“動”けば、「協」の偏が示すように力が十倍になります。

### まちづくりの2・6・2の法則

地域で何かまちづくりをやろうと思うと2

割は前向きな人で、2割は何をやっても足を引っ張る人です。残りの6割はその様子をじ〜と見ていて、元気付いた方にいつの間にか移動しています。そして言う言葉は「私も最初からそう思っていました」。最初から思っていたら、「初めから行動しなさいよ」と言いたい。私は前向きの2割の方を当然応援します。足を引っ張る2割の方については、基本的には説得はしない。なぜならその時間ももったいないから。

日本人の男性の平均寿命(0歳の人の平均余命)は、79歳、これを秒に換算すれば約25億秒。女性の方は、85.81歳、約27億秒。しかし、1日の4分の1は寝ています。実際は約19億秒と20億秒。夫婦喧嘩している間、落ち込んでいる間も時間は経過しています。すなわち余命が少なくなっているわけです。もったいないと思いませんか。生まれた時に、余命が設定されている時計をいつも身につけていると思ってください。夫婦喧嘩したときには、余命時計を見る。もったいないと思うと喧嘩もなくなります。落ち込む暇なんてもったいない、何でも前向きに取り組みましょう。上司の悪口何か言っていると、自分が上司になった時に言われますよ。

## 地域探索

車ではわからないことも、自転車で行ったり、歩いたりすると、お地藏さんが見つかったり様々な情報をみんなが共有することができます。行政だけ、民間だけ、よそ者だけが知っているもだめ、みんなが歩きまわって情報を共有することからアイデアが出てきます。ある時、PTAの会長さんが、「実はこの交差点では、不審者が最近よく出ます」とおっしゃいました。それを聞いた高齢者の方は、「知らなかった。では、私はいつもここを散歩しているから散歩の時間帯を子どもの登下校の時間に合わせてあげましょう」と言われました。これが大切。情報を共有することによって、一人一役、自分でもできることを探していこうということになります。

ある方が、昭和28年の大水害の写真を持って来られた。若い人は、「全然知らなかった、今でいうとここはどこですか、どこまで水が来たのですか、それを引っ越してきた人や若者に

もわかるようにこの場所に印を付けておきましょう」ということになりました。昔の水害の歴史を知らせることで、川にひとりでも多くの方が関心を持ってもらう仕掛けになります。

## 話し合いのルール

ワークショップなどを含む会議で重要なことは、公民館、コミュニティセンターの入り口に書きましょう。話し合いのルールづくりです。例えば「性別、年齢、居住年数、肩書きで差別をしない会議の雰囲気づくり」。参加者の名前を呼ぶときは、みなさん「さん」づけです。学校の教師経験者がおられても、先生とは決して呼ばない。上下関係が発生しないようにする。どんなに偉い方でも「さん」づけです。地域に住んでいれば、みんな平等。そうすることによって意見が言いやすくなります。

また、コーディネーターなどは、参加者の特技を活かして、まちづくりを進めましょう。絵が得意な人には、計画書の表紙に絵を描いてもらいましょう。ハーモニカが得意な人には、会議が始まる前にすてきな曲を奏でてもらいましょう。話し合いの雰囲気が高まり、やる気が起きます。

## 通学路と子ども110番

子ども110番は、いざという時に実際機能するのでしょうか。子どもに「この子ども110番の人知っている？」と聞いたら「顔知らない」と言いました。顔を知らない家に、子どもは駆け込みますか? 「駆け込みません」と言います。そこで駆け込み訓練をしました。不審者役が子ども110番の前に車を止めて待っています。そこに3人の子どもがやってきます。不審者役はそのうちの一人の子どもに、道を尋ねて車に引きづり込もうとします。その様子を見た他の2人の子どもが110番の家に駆け込み、そこでご主人が出てきて、「何しとるか。」と注意をします。その様子を見た子ども110番の家の奥様は110番通報をします。これは練習しておかないと、本番にあわててスムーズな対応ができません。家で2人の時は対応できても、ひとりの時はどうしたら良いのでしょうか、外に出るのか、110番通報するのか迷いが来ます。実際に横で見ていると、受話器を持つ

奥様の手はぶるぶる震えていました。警察が来て不審者役を捕まえようとしても、なかなか捕まらず、2～3分逃げ回って、最後は警官4人がのしかかって手錠をかけ、捕まえました。その様子を子ども達は周りの田んぼで見しており、自分が声を掛けられて時、どう対応したら良いのか、理解できたはずです。最近、佐賀県小城市桜岡小学校、佐賀市春日北小学校、唐津市鬼塚小学校でも同様な駆け込み訓練を行いました。



こういう経験を年に1、2回でもやっておくとずいぶん地域の雰囲気は変わってきます。

最近子ども達は大きな声を出す機会がないようです。子ども達に声を出させようと思ったら、なかなか声が出ない。子どもをぱっと捕まえたら無言ですよ。そこで朝と帰りに、教室で大声を出す訓練をさせると良い。時々は体育の時間や全校集会などを利用して、体育館等に集まった時に声を出す。「助けて」という声でなくても良い。「わー」で良い。ところがこれだけ練習しても、通学路では声が出ません。そこでまずは笛を吹かせて、だんだん声を出す訓練へと導く。通学路に「大声出しスポット」などがあると良いですね。道路管理者が知恵を出し、教育委員会や学校と連携して実践すると良い。

また、子ども110番の場所を覚えても、玄関までの逃げ道がわからない場合もある。門の開け方がわからなこともある。あるとき私が不審者役になって子ども達を追いかけました。子どもはさっと逃げたのですが、子ども110番の門の開け方がわからず、私が捕まえてしまいました。そこで、子ども110番の家との交流を深め、逃げ道を覚えるように、子ども達には今、学校だよりを持たせています。学校だよりを子ども達に持たせて、子ども110番の家に直接手渡すのです。子ども達は、門を開けて、庭を通り、玄関を開けて本人と直接会話しますので、逃げ道をすべて覚えます。玄関が開

まっていれば、裏口に回ります。こういう取り組みをやったらどうでしょうか。

子ども110番のマークの位置も問題です。大人が目線で設置するのではなく、子ども目線で設置することが大切。子どもの目線（地上から1mぐらい）で見えるようにして、曜日を決めて看板をタッチして学校に行こうとか、指さして行こうとか、そうすることによって、110番の家の人は一生涯懸命看板を磨いてくれたりします。通学路沿線のひとりでも多くの人が子どもを見守る仕掛けをやっていこうとしています。高齢者には、窓からでいいですから手を振ってくださいとお願いしたら、素晴らしい笑顔で手を振ってくださる方がいました。後でお尋ねしたら、議員さんの奥さんでした。さすが・・・。

窓から手を振って子どもを見守ることは不審者対策にとっても有効です。ひとり暮らしの方にも登録してもらおうと良い。ある時子どもが手を振ろうとしたら、一人暮らしの高齢者がいない。その子どもは、学校に行つて、「先生、あそこのおばあちゃんが、今日手を振らなかった」と報告します。先生はすぐに自治会長さんの方に電話をして、自治会長さんが安否の確認をします。これは、子どもが高齢者を見守るという逆発想になるわけで、ある人は「子どもの民生委員」と言われました。官民協働という視点では、道路管理者にも看板をたててもらおう。「この通学路では、窓や庭や田畑、お店、子ども達を地域みんなで見守っています」という看板です。私が不審者だったら、どこの窓から見られているかわからないと恐怖感を覚えます。不審者は、この地域には入らないということになります。こういうものが、道路管理者との協働事業です。

ひとり通学の対策としては、通学路沿いの人に見守ってくださいと親と子どもと一緒に通学路沿線の家に挨拶に行くことをやっています。あるおじいちゃんが挨拶をしたら、不審者と間違えられて15分後パトカーがやってくるということがありましたので、顔を覚えてもらうということが大事です。

通学中、せっかくだから子ども達に歩きながら楽しく学習してもらおうと思って、小学校で習う漢字1,006文字をパネルにして、子ども

110番の家の前に貼りました。おもしろいですよ。子どもは自分の学年の漢字を探し、わからないと上級生が教えていました。時々、子ども110番の家の方が立っていて教えてくれたりもします。ある中小企業の社長さんが、従業員20人ここに連れてきて、「これで4文字熟語を作れ」とか言ってました。ひとつの通学路グッズですけども、それでみんながここに集まって、子どもが登下校するときに見守ってくれるという仕組みができます。もちろん子ども達も漢字を覚えるという「学力向上通学路」の誕生です。

花を通学路沿線の人と一緒に植えるのも良いことです。沿線の人に、子ども達に対し目を向けてもらうために、通学路に子どもたちが植えた花を置いています。登校時に自分の名前を書いたペットボトルに水を入れて、朝、半分水をかけ、花の横にペットボトルを置き、学校に向かう。下校時には残りの水をかけて空になったペットボトルを持ち帰る。週に何日かそれを繰り返す。水をかける時に沿線の人と挨拶を交わし見守ってもらう。休日には、沿線の方が管理をしてくれる、交流ができるような仕掛けも楽しいです。

### あいさつスポット

全国で初めて国土交通省福岡国道事務所の協力を得て福岡市であいさつスポットの社会実験を行いました。挨拶したい方が堂々と挨拶できるように、歩道に挨拶スポットを3箇所設置しました。

すると、引っ越してこられた人が出てきて、「おはようございます」と言っている。そこに



永年住んでいる人が出てきて、挨拶が始まりました。道がコミュニティの場となるという新たな発想です。一般的に道路ができると、A地区とB地区を分断すると言われますが、あいさつスポットのように発想を変えれば、道が人と人とを結びつけることにもなる。沿線の人も子ども同士も挨拶しています。

雨の日には傘が借りられる場所を登録しておく、傘を借りた人、貸した人の交流が起きます。通学路沿線の人に見守ってもらうというそういう仕掛け方です。

### 糞取り隊

りっぱな道を作っても、また地域の人が花を植えても、そこに犬の糞があると住民マナーを問われます。ビニール袋を持っていても中には糞が入っていない。そういう方が地域の中にはいるようです。そこで「よそ者糞取り隊」というものを結成して、ゲリラ的に糞を取り、何キロの糞が出たとそこに表示していきます。看板の名前は、「糞害怒」「憤慨道」。新聞が、「よそ者が糞を取っている、地元の人は何をしているんだ」と取り上げたところ、教育長さん、町長さんまで出てこられた。11.5キロの糞が出ました。隊長は学生さん、若い人にまかせます。彼は、卒業研究で糞取りをやりたいと言っていました。

### 不法投棄へのおまじない

農道を作って駐車場も作ったらゴミの山。こういうところを私は住民の協力を得て一発でゴミゼロにします。ごみを市民と一緒に30人くらいで拾いまして、その後に80キロくらいの形の良い石を置きます。それにしめ縄をつけて御幣をつけます。やはり日本人。これを置いたら、ごみがなくなりました。みんなできれいにしようと、花を植える人も出てきました。最近では、お賽銭まであがるようになりました。3、4ヶ月たつとしめ縄が落ちるので、またきれいにする、人間の手が加わっているということでごみを捨てない。ごみが大量にあれば、行政に支援をお願いし、車を貸してもらう。最近では、とてもきれいになって、なんとビューポイントとして、写真を撮る人も出てきましたし、散歩をする人が石を拝むようになってきました。

た。石はいつまでもは置かない予定です。しかし車では石がなかなか見えない。そういう時には、12メートルにまたがってしめ縄をつけたら、一発でごみはゼロになりました。大事なことは、生涯学習のしめ縄作りの技術を住みやすさに活かしたことです。今までは教育委員会が生涯学習を、まちづくりは企画が担当で連携がとれていなかった。実際に自分たちが生涯学習で習ったことを現場で活かしていく。このためのコーディネーターがこれから求められます。



例えば、玄関前に器に水をためて花びらを浮かし、道路沿線を植物園のように彩る。現道路でこうしたことをやっている、今度できる新しい道でもできるといいなと最初から参加型の道づくりの発想が生まれます。これは、「一戸一美運動」と呼びます。いろんな美しいものを置く。道にちょっとした工夫をすると、外からやってきた人達は、自分達は迎えられているんだなと思うようになる。おもてなしの心ですよ。生け花も窓から外に向かって飾る。飾っている奥さんに「いつもありがとうございます」と言ったら、翌日花が倍に増えていました。ほめることも大切です。生涯学習で習う竹細工に、俳句をやる方が俳句を作って、書が得意な方が、その俳句を竹に書いてくれる。そこまでが生涯学習ですけれども、それを街に展示するとまちづくりになり、街の雰囲気がからりと変わる。



ブロック塀などに竹の俳句を飾れば景観もよくなります。先日、塀の穴の横に「覗くな」と書きました。覗くなと書くとみんな覗いていきますね。そういうふうワクワクさせるような仕掛け方が良いですね。

地域で町内会長、PTA会長、青年団、消防団などをやっている方に、各家にもものを配るときには、必ずデジタルカメラを持って行ってくださいとお願いしています。各家の自慢の花を撮っておいて、ポスターにして各家に配ったところ、翌年度は花が2倍になりました。こういうちょっとした仕掛け方です。美しいものを見て歩くのを「アートウォーク」と私は呼んでいますが、社会実験でやられたら良いですね。モデル的にこの1キロをアートウォークしましょう、一戸一美をわくわくしながら探そうと、そうすると街並みもよくなります。歩く人は「アートウォーカー」です。

### かかしで活性化

農業の活性化でかかしを活かしています。家が一軒もない通学路にかかしを置いて、かかしが子どもを見守るという風にできないか。こういうものを置いていると地域がひとつになって子ども達を見守っているなという地域力を歩く中から感じることができます。おっばいをあげているかかし、つなぎを来た人が機械を修理しているかかし、おばあちゃんが一輪車を押しているかかし。都会から来た人が、「おばあちゃん大丈夫ですか」と声をかけてました。本物そっくりのかかしです。かかしづくりは2泊3日で教えます。どうぞ私の集落に来てくださいということで、グリーンツーリズムが成り立ちます。そして作ったものをレンタルで商店街に貸し出すという知恵も出てきます。イノシシに追いかけているかかし、こえたご(肥たご)を持ったかかし、草刈りしているかかし。あるおばあちゃんが、「あちらは毎日草を刈っているけれども、全然進んでいないね」とおっしゃっていました。安倍前総理のかかし、景観をながめているかかし、とるば(景観がすばらしく駐車場があるところ)のところにあれば良いかもしれませんね。モンペをはいてイナバウワーしているおばあちゃんのかかしに「イネバパー(稲婆)」と添えられています。かかしを

作ることがうまい人、言葉を作るうまい人が組み合わさっているいろんなことができています。立ちションしているのかかし、秋川さんのかかしには、「私のお墓の前で立ちションしないでください」との言葉。おじいちゃんとおばあちゃんのかかしには、「老婆（ローバ）の休日」との言葉。こういうイベントをやると、1ヶ月で数千人がやってきます（長崎県波佐見町鬼木地区の事例）。見る人にもっと楽しんでもらおうということで、苗を投げる体験や、料理も食べてもらって、バスで見送りをする。イノシシしかないところに、人がたくさん集まります。

### まちの駅

道の駅の民間版です。トイレが借りられて休憩できる場所。トイレがないと女性の方は安心して旅ができません。お店や一般住宅でもOK。郵便局が「文の駅」とか、菓子屋さんが「お菓子の駅」とか、ホテルもまちの駅になれます。まちの役には駅長や助役がいます。タクシーがまちの駅なると良い。まちの印象がタクシーの運転手の一言で変わります。最近では葬儀屋さんもまちの駅になっています。葬儀屋さんの駅名はみんなで考えました。一番受けたのが「終着駅」。でもこれでは誰も来ないですね。最後は「出発（たびだち）の駅」になりました。

行政は、パンフレットの資金を出してもらうなど人的、資金的に応援してくれています。個人の店は応援できないけれど、トイレや休憩場所を無料で貸し出すまちの駅は応援できる。岩手でもこれがたくさんできると、どうぞ岩手へということになります。道路の沿線にできると、安心して旅ができて、地域の人たちとふれあうことができます。駅長さんの優しい言葉が返ってきます。道の駅は社会実験中も含め全国で1,500カ所以上あります。道の駅だけでは道路案内は不十分。まちの駅は、観光振興、商業振興、地域連携、広域連携、道づくり、景観づくり、地域コミュニティの形成など、いろんな分野とつながっています。子ども110番をやっているまちの駅もあります。まちの駅にまちの駅の時刻表があれば良いですね。そうなると道の駅、まちの駅、鉄道の駅がつながり、人の動きが出てきます。やる気のある人同士で駅を紹介する、やる気のある人たちが手をあげてでき

る仕組みです。商店街では、ある一定エリア全体の活性化を議論しますが、エリアを決めると、先ほど述べたように、必ず足を引っ張る2割も入ってくるので、なかなか議論が進まない。地域活性化では、まちの駅のように、地域のために何かやりたいと願う、前向きな人とまずはやるのが大切です。

### 川づくり

私も所属しているNPO法人地域交流センターでは、川で遊び、交流する道具としてEボートと呼ぶボートを作って、現在全国展開しています。より多くの人が川で遊ぶと川のことを考えてくれるようになります。川で遊んだことが無い人が川のことを真剣に考えますか？よ〜く考えてください。



岩手でも東北水環境ネットを中心として川づくりワークショップをやっておられると思いますが、先日開催された九州の川づくりワークショップでは、85歳のおばあちゃんが登場し、「私たちは川をこんなに愛しています。子どもからお年寄りまで集まり、川を通じて様々な活動を展開しています。」という発表を聞いてきた。河川管理者の国の河川事務所の所長もワークショップに参加し、官と民が一緒になって1泊2日、本音で意見を交わす交流会はすばらしい。

### 笑顔

東京に高瀬斉先生という利き酒師で漫画家の先生がいらっしゃいます。地域に来てもらって、百戸農家がある住民240人全員の似顔絵を描いてもらいました。福岡県立花町にある松尾百笑村です。みんなの似顔絵が公民館に貼ってあります。

百笑村では年1〜2回百笑村イベントを開きます。先日、家が1軒もない、2キロの通学

路に、田んぼや農地の所有者が分かるように似顔絵を表示しました。そうしたら、地域の人たちがみんなで見守っている雰囲気が出てきました。似顔絵の下にはことわざを書きました。「急がば回れ」「早起きは三文の得」、前向きのことわざをずっと書いて、子供が通学しながら覚えていきます。1週間もすると20くらいの諺を覚えていきます。学校に一番近いところの諺が「一寸先は闇」だったので代えてもらったのですが。笑顔の似顔絵は、農産物の生産者シールとしても使っています。



商店街でも笑顔が必要です。笑顔がお店にあるから「笑店」。笑顔があるから思わず皆さん物を買います。これが「笑動買い」。笑動買いになると「笑売繁盛」となり、これが横につながるからこれが本物の「笑店街」。これが集積すれば都市計画上の「笑業地域」と言っています。笑顔が並ぶといいですね。食事処の前にも料理人の似顔絵が描いてあって、入ってみると外の似顔絵そっくりな料理人が中において、お客様はおもわず笑顔に。まさに『笑顔で盛り付け、笑進料理』です。

### ムーミンの木

私が福岡県古賀市青柳五所八幡宮で見つけたムーミンの木。推定樹齢千年のクスノキ。地域の方は、普通のコブしか見てなかったのを、私はムーミンそっくりだと言いました。



そうしたら今では東北からも福岡へ、この木を見に訪れる方がいます。近くには亀の木や助け合いの木などを発見し、今ではこの神社は珍

樹の森と呼ばれるようになりました。他地域では、人面木、しかめっつらのアンパンマン、目玉親父の木などの不思議な木を見つけました。こういうものが道路沿線にたくさん並ぶと、楽しく道路沿線を旅することができますね。みんなで見つけたらどうでしょうか。因みに私は、珍樹発見活用倶楽部を結成しました。

### トイレ

日本トイレ協会の会員でトイレの研究をしています。オランダのスキポール空港の例ですが、男性がトイレを汚さないように、トイレにハエをくっつけたんです。男性のトイレにハエをくっつけた途端にどうなったか。なんとかハエを落とそうという心理が働いて、それを的にして用を足すもんだから、用足しに集中し、足下が汚れなくなると。

これは福岡の天神地下街にも現れました。的付きトイレです。100点、50点、10点とか書いてあるとまた楽しいですね。的付きトイレの誕生です。

### おわりに

そろそろ時間のようです。これ以上話すと私にイエローカードが出てきます。ぜひ皆様方、九州の話ヒントに、岩手でできるものは取り入れていただきたいと思います。私には戦争で亡くなった2人のおじさんがいます。毎日拝むと、私を見つめ、「お前たちはいいな、戦争で命を落とすことないのだから、道づくり、川づくり、まちづくりをやっていても命を落とすことは無いのだから頑張れ」と励ましてくれます。皆さん、まちづくり、地域づくり、川づくり、道づくりなど、一緒になってやりましょう。

人の喜びは、自分の喜び。人を楽しくするようなことを、できるときに、できることを一人一役でやれば、地域は明るくなります。がんばろう！